NPO法人・越谷市郷土研究会

第三八〇回　史跡めぐり

「陽春の岩槻道と旧長島村」

実施日　平成二十年五月二十四日（土）

集　合　越谷駅西口　午前九時二十分

九時三十分のタローズバス「浦和美園駅行き」

九時四十九分の国際興業バス「東川口駅行き」

案内者　加藤　幸一

コース（3．1キロ）

※鈎上バス停着：タローズバス（２２０円）は　９：５０着

国際興業バス（２３０円）は１０：００着

鈎上バス停→五才川跡地→五才川と江戸時代の岩槻道→大堰橋→

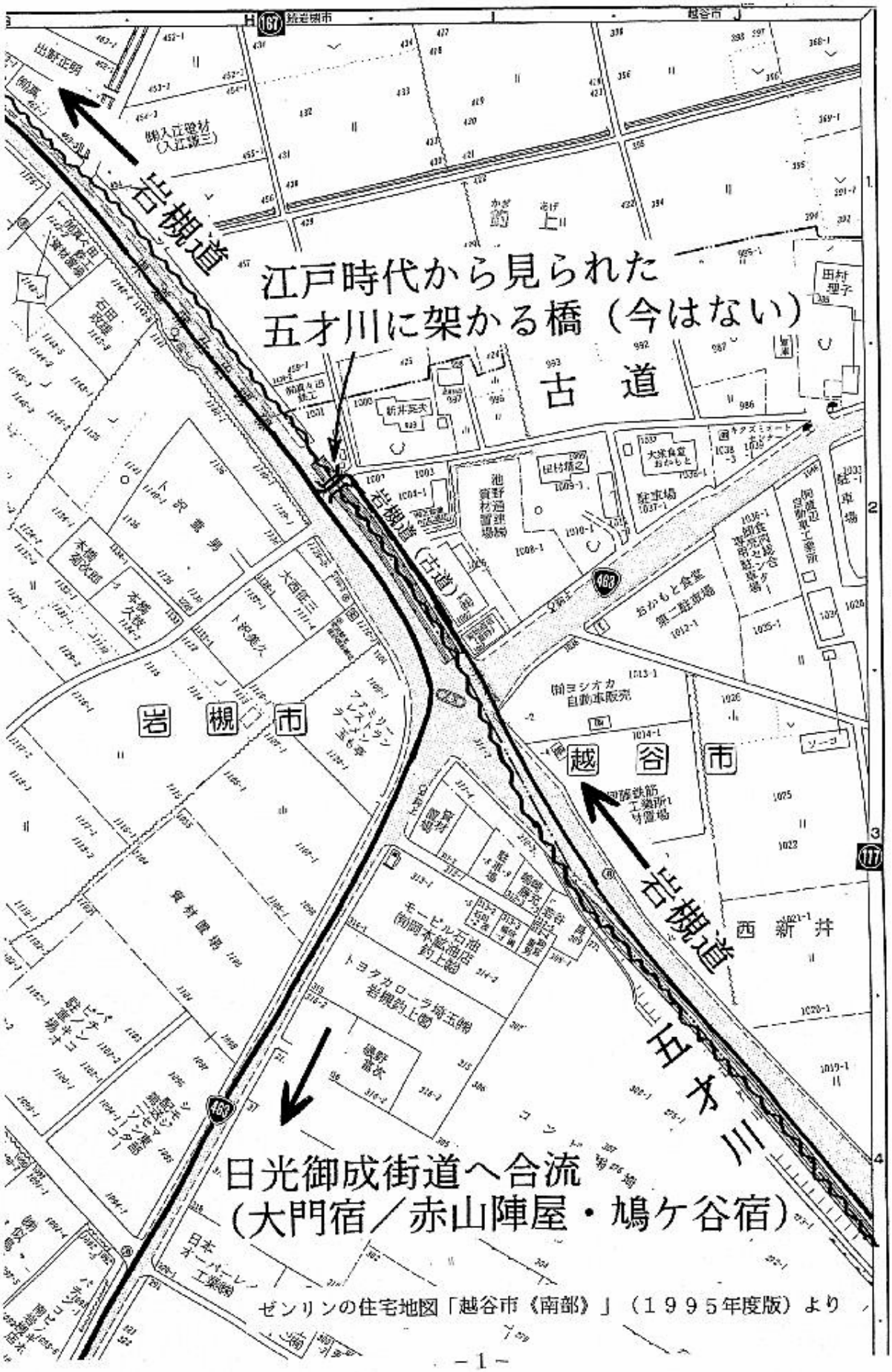
長島村の鎮守・稲荷社跡地→長島村の名主・内山家（高札場跡、長屋門、トイレ）

→長島村の石仏→三ツ又堰（末田用水の新川と出羽堀の分岐点）

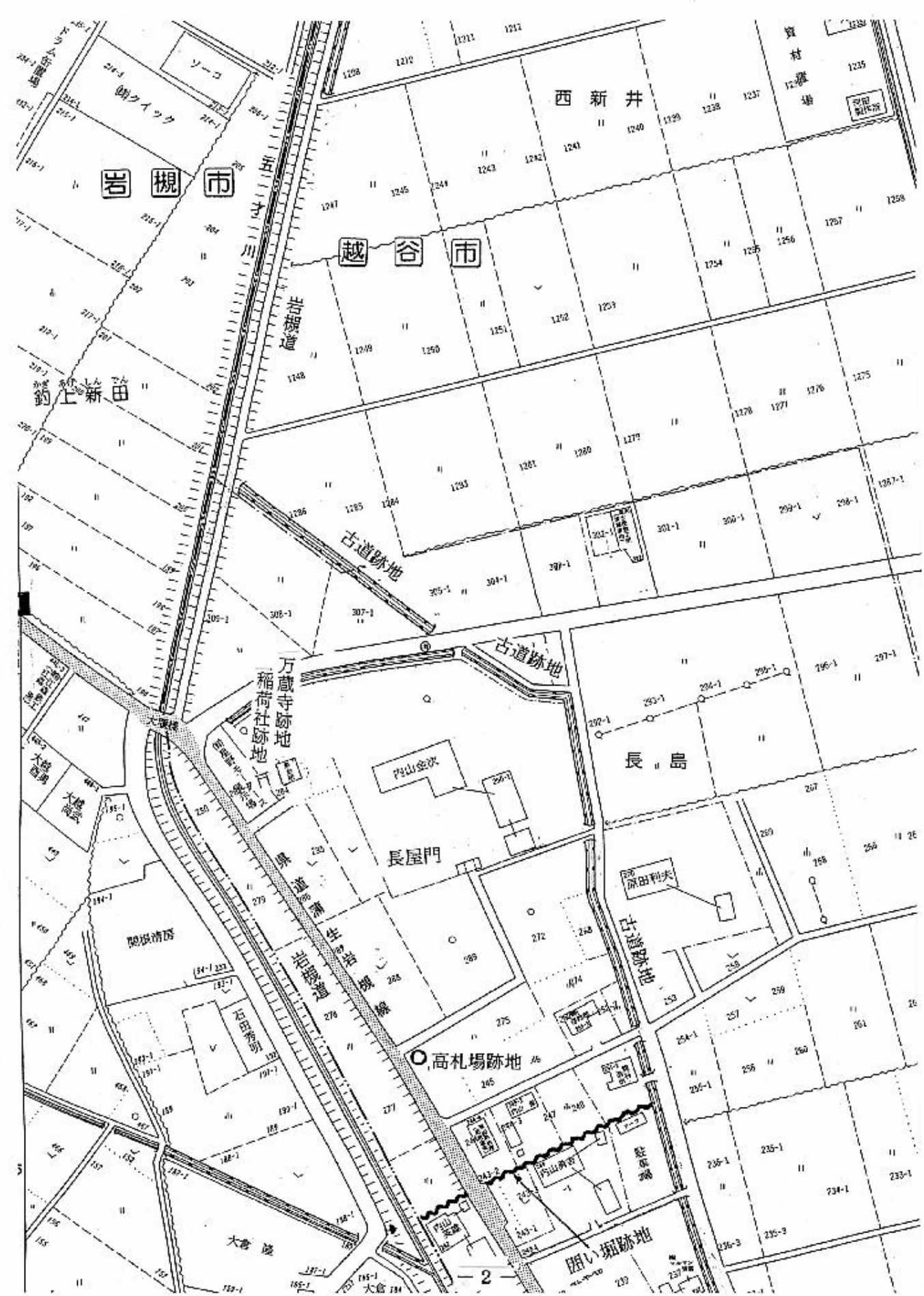
→新川（末田用水）→県民福祉村（トイレ）

→越巻村の中新田の鎮守・稲荷社の石仏→「けやき荘」（１２：００解散）

※「けやき荘」より越谷駅西口行き（１２：２３、４３、１３：０８、２３）あり

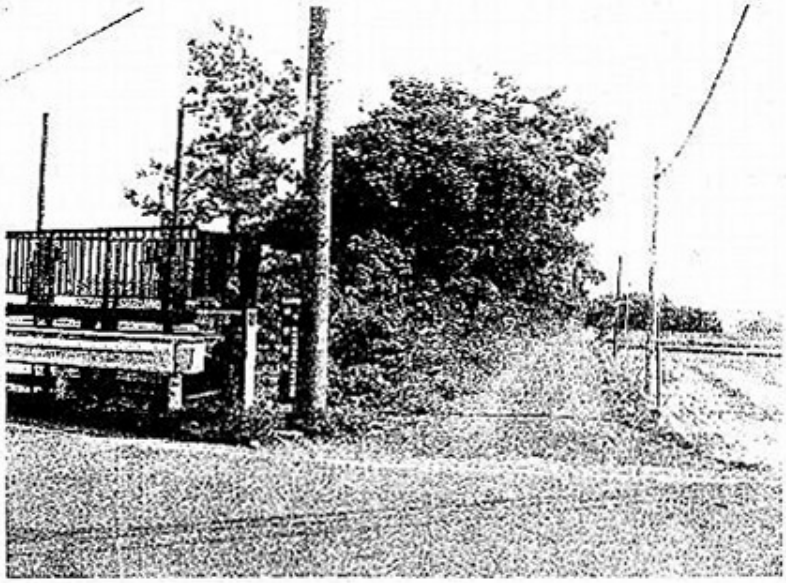


ゼンリンの住宅地図「越谷市《南部》」（１９９５年度版）より


岩槻市
越谷市
西新井
五十川
岩槻道
鈎上新田
古道跡地
古道跡地
万蔵寺跡地
稲荷社跡地
長屋門
長島
原田利夫
県道東生岩槻線
岩槻道
高札場跡地
古道跡地
大蔵陵
大蔵陵
大蔵陵
石田秀明
駐車場
囲い堀跡地

五才川と岩槻道

昔の岩槻道の名残が今も見られる農道（内山家そば）
<北方向を見る>



現在は、かつての岩槻道と打って変わって、人影が全くみられない寂しい道となっている。

向かって左端は大堰橋、向かって右方、写真枠の外に内山家がある。

天保７年の長島村絵地図
（長島村内山家文書より）

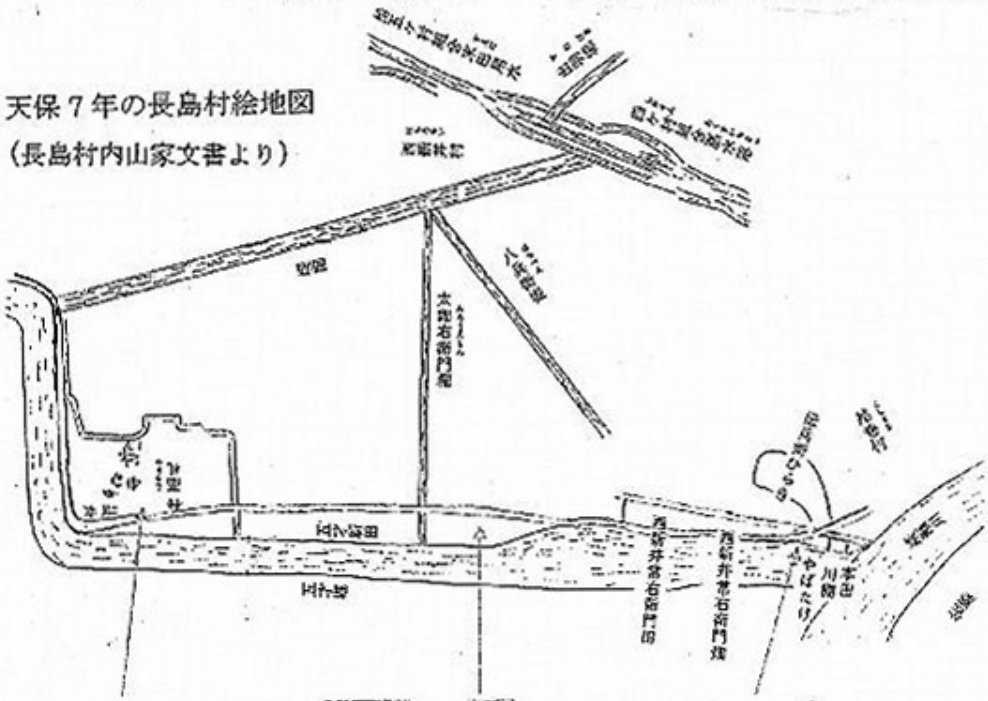
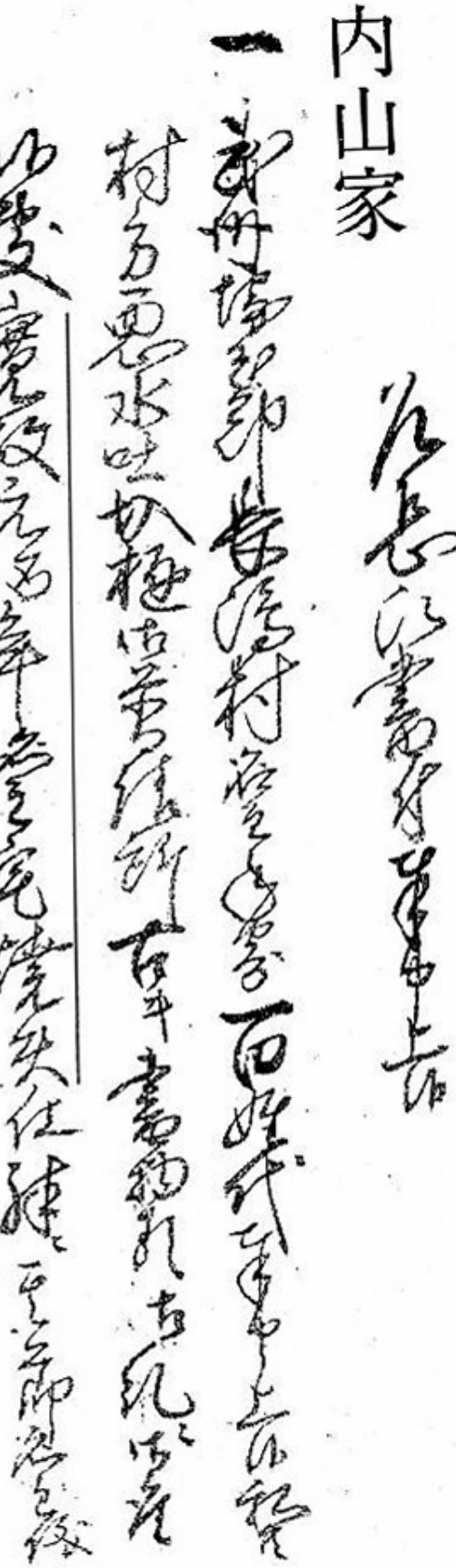


写真２ 内山家の長屋門

写真３ 旧岩槻道

写真４ 五才川に沿う旧岩槻道

内山家



（後略）

乍恐以書付奉申上候

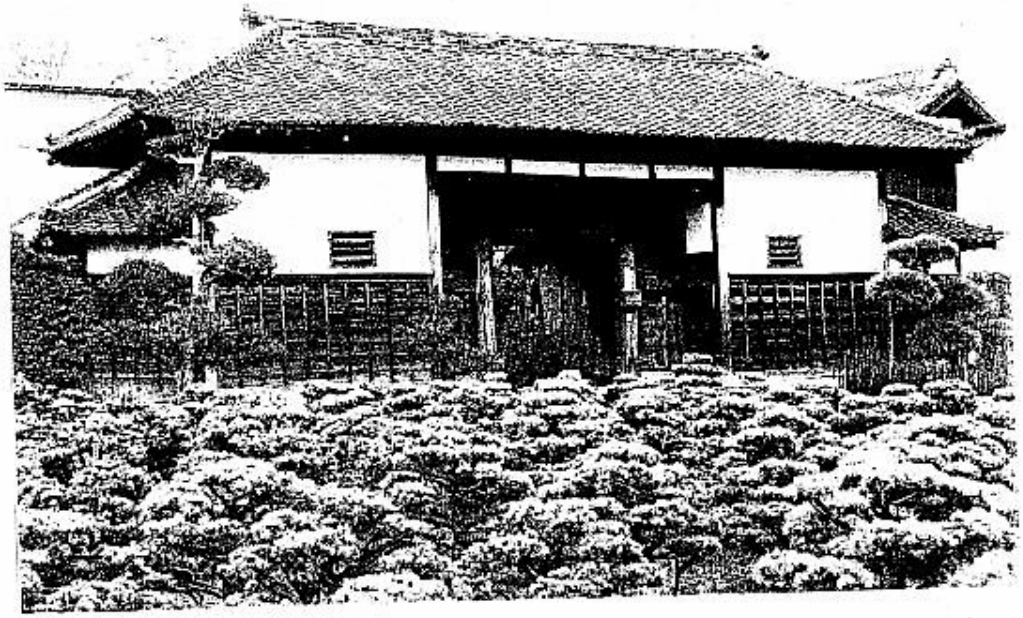
一、武州埼玉郡長嶋村、名主、年寄、百姓代、奉申上候、私共村方、悪水吐圦樋御普請所、古キ書物類、相紛ニ御座候処、寛政元酉年、名主宅焼失仕、殊ニ其節、名主儀、御支配御用ニて出府罷在候儀、家内諸道具等ハ勿論、大切成諸書物類、皆焼失仕、其段、野田文蔵様御役所ニ御訴書奉差上候儀ニて、其後、御伏替御普請、奉願上候度毎、古キ諸書物類、御尋ニ御座候得共、右焼失之段、奉申上候て、御聞済被下置、前々之通り、御入用を以、御伏替、御普請被仰付候場所ニ御座候、尤、先同役共、年番之砌り、取扱候四拾三ケ年以前、安永八年　※安永八年は一七七九年之御仕用帳壱冊有之、奉差上候間、何卒、此度之儀も、前書御勘弁之上、以　御慈悲、是迄、被仰付候分、并、右、安永年中之御仕用帳ヲ以、御伏替御普請、被仰付候様、偏ニ御願奉申上候、□□、（以上）

（虫食い）㊞

※寛政元年（一七八九）に長嶋村の名主宅（内山家）が焼失し、この時に古い書物類も焼失したという。

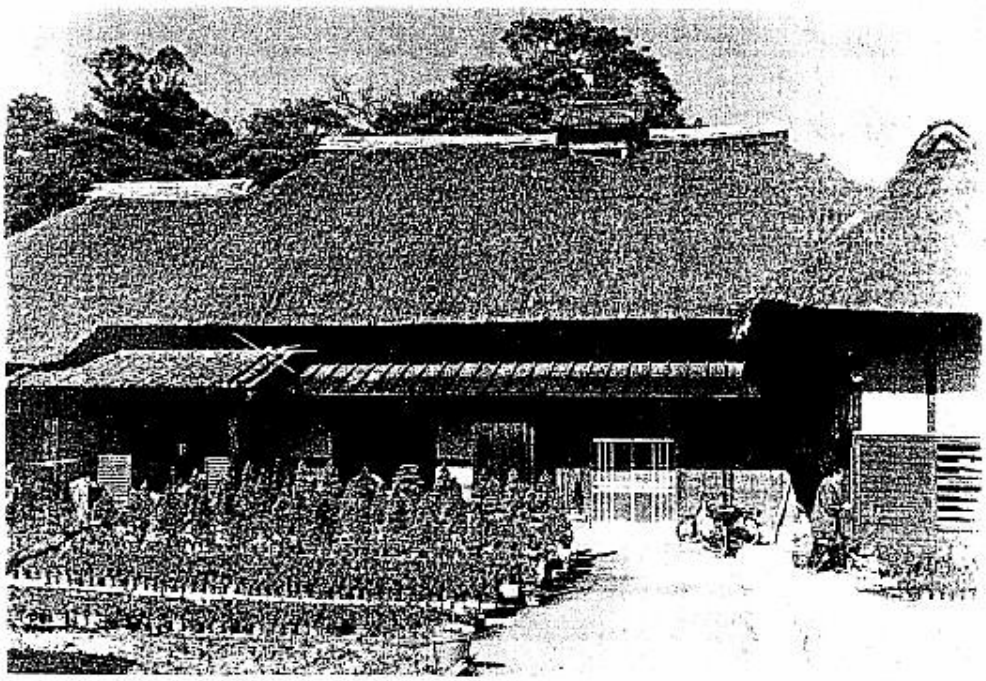
縮尺８６％

長屋門



江戸時代からの長屋門としては、市内ではここのみ現存する。

母　屋



母屋は今から約２２０年前の寛政元年（１７８９）に焼失した。
現在の江戸時代の母屋は今から２２０年前に建てられてと推定できる。

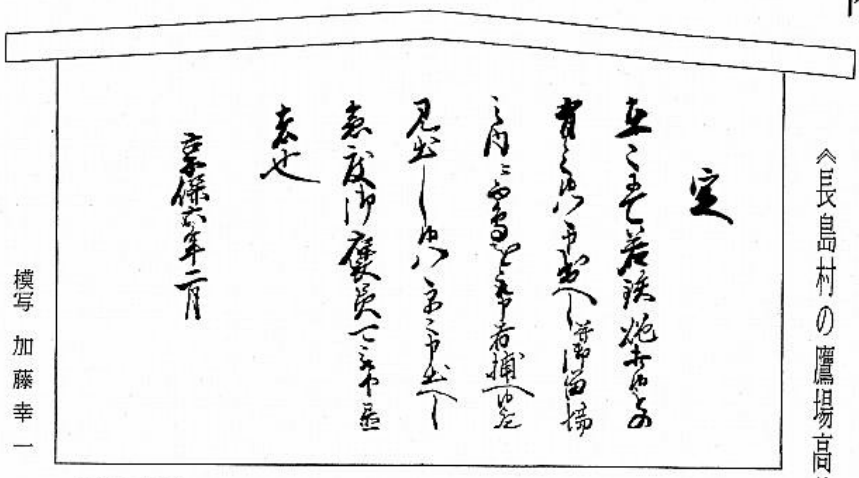
内山家の高札

☆展示してある高札は、八代将軍吉宗の頃の鷹場高札である。
鷹場とは、野や山で飼い馴らした鷹を放って野鳥などを捕らえる鷹狩りをする場所で、高札とは立て札のことである。
長島村は、鷹狩りが行われる鷹場の一つで、この地での密猟を堅く禁じていた。

☆越谷市内の鷹場（将軍家鷹場、紀伊家鷹場、捉飼場）

・将軍家鷹場が、八条領と呼ばれる西方・東方・見田方・南百・四条・別府・千疋の各村々。
・御三家の一つ紀伊家の鷹場が、谷中・四町野・越巻・大間野・七左衛門の各村々。
・長島村を含むその他の地域の村々は、捉飼場と呼ばれる鷹場に指定されていたようだ。
鷹匠（調教された鷹を連れて鷹狩に従事する役目をもった役人）が、日頃から鷹の調教や必要な鳥を捕獲するために使用したのである。

《長島村の鷹場高札》（越谷市長島二九〇の内山金次氏所蔵）



縮尺２５％

模写　加藤幸一

定

在々にて若鉄炮打候もの　※在々・あちこちの村里

これあるそうらわば

有之候ハヽ申出へし并御留場　※御留場・狩猟や漁労を禁じた場所

之内ニて鳥を取申者捕へ候歟

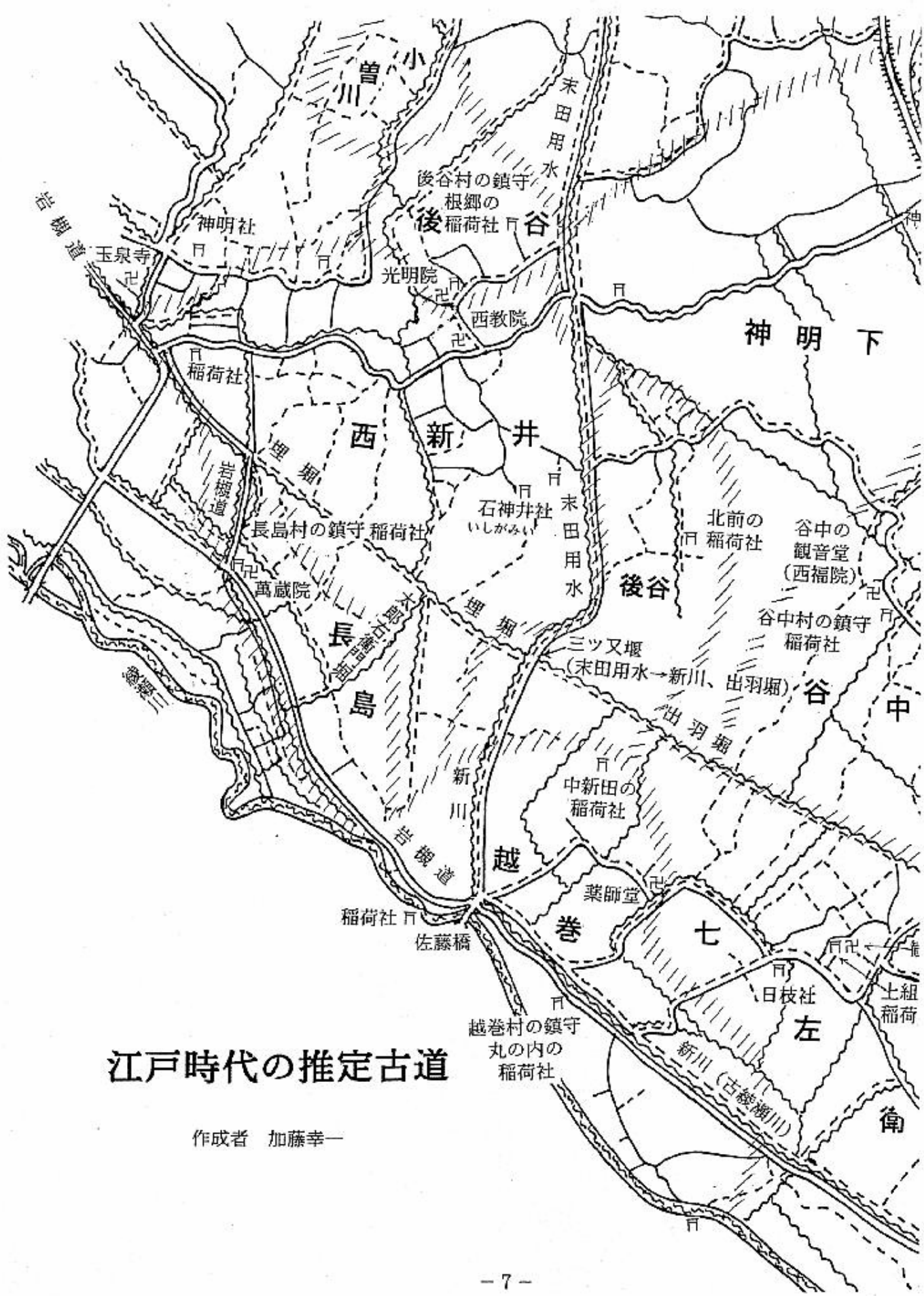
見出し候ハヽ早々申出へし　※見出す・見つけ出す

急度御褒美可被下置

者也

享保六年二月

※享保六年は、一七二一年



江戸時代の推定古道

作成者　加藤幸一

庚申塔（こうしんとう）

腕が六本もある青面金剛と呼ばれる仏様を本尊とする庚申信仰の庚申塔である。必ずといってよいほど

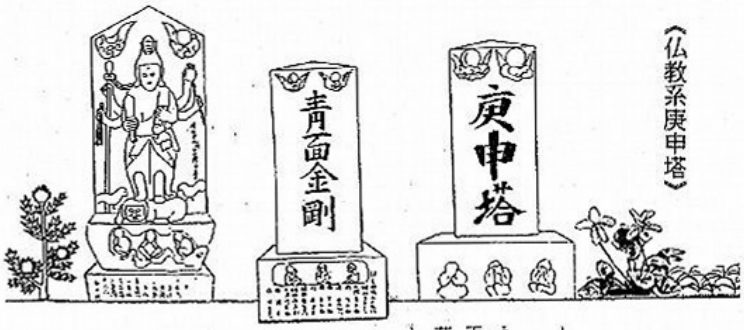
「見ざる・聞かざる・言わざる」

の三猿が見られる。

庚申信仰は六十日に一度やってくる干支の庚申の日に庚申講の仲間たちが一堂に会し、徹夜して過ごす行事である。それは、人間の体の中に潜んでいる三尸（さんし）と言われる三匹の尸虫が、庚申の日の夜に、人の睡眠中に口から抜け出して天に昇り、その人が日頃犯した罪を天の神に暴く。するとその報告をもとに判断して生命を奪ったり、若死にさせたりする。そのために、その日は三尸虫が身体から抜け出る機会を与えないように寝ないのである。

このような庚申信仰は、かつては全国津々浦々で見られたのである。

《仏教系庚申塔》



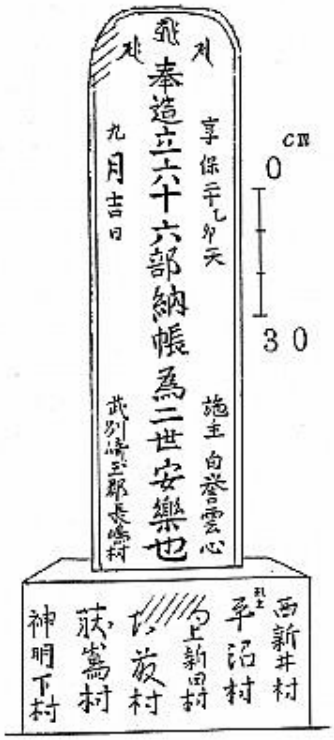
《神道系庚申塔》

猿田彦と庚申塔

猿田彦命（さるだひこのみこと）とは天孫が降臨するときの道案内をした神である。つまり、天孫ニニギノミコト（天照大神の孫）が高天原（たかまがはら）から葦原中国（あしはらのなかつくに）の日向国（ひゅうがのくに）高千穂（たかちほ）の峰（みね）に降りてこられる途中の天界からの分かれ道である天八衢（あまのやちまた）にいて、そこから葦原中国への道案内をしたという。『八衢』とは「八つの道（ち）の股」という意味。「八」は数が多いことをさしている。

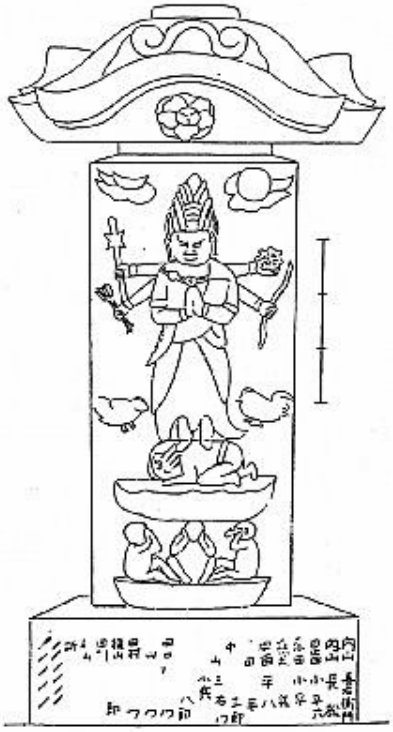
猿田彦大神

長島 1・ 六十六部廻国塔



稲荷神社

長島 2・ 青面金剛像庚申塔

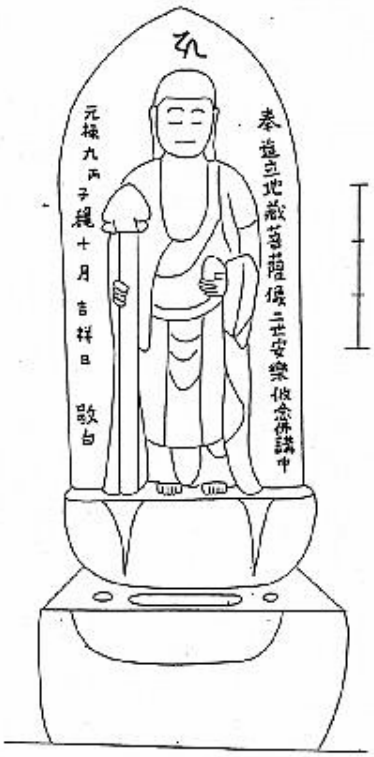


稲荷神社

長島 3・ 一石六地蔵菩薩像

稲荷神社

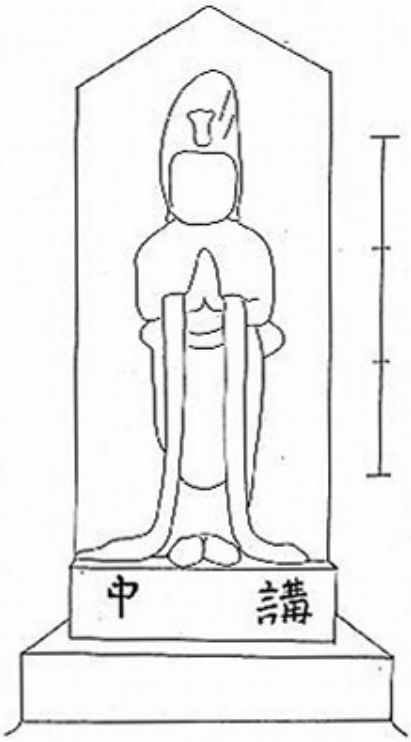
長島 4・ 地蔵像付き念仏供養塔



稲荷神社

5・長島 馬頭観音菩薩像

久保家［長島二一四］路傍



旧長島村の石仏

（1） 稲荷神社

長島村の鎮守である。現在は、三ツ木家（長島二一八）のそばに移転（平成十年四月）されているが、もとは長島村の北西端の内山家（長島二九〇―一）の西隣に長島の集会所とともにあった。移転する前の稲荷神社の近くには江戸時代には萬蔵寺という寺院もあった。

なお、この稲荷神社には三基の力石がある。また内山家は、江戸時代に名主を勤めた家柄で、敷地の回りには構え堀がめぐらされていた。

1・六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』六十六部九番）

所在地　長島・稲荷神社

石塔型式　隅丸角型（西南西向き・高さは高）

年　号　享保二十年（一七三五）

［正面］

（梵字）　享保二十乙卯天　施主　白誉雲心

（梵字）奉造立六十六部納帳為二世安楽也

（梵字）　九月吉日　武州埼玉郡長嶋村

［台石］

西新井村

願主

平沼村

鈎上新田村

左藤村

荻嶋村

［右側面］

神明下村

［台石］

（秋）□山喜右衛門

同性　善六

藤波利左衛門

2・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申六六番）

所在地　長島・稲荷神社

石塔型式　笠付角型（西南西向き・高さは高）

年　号　享保三年（一七一八）

［左側面］

（梵字ウン）奉造立青面金剛二世安楽祈（所）

［正面］

（日月）（青面金剛像）（二鶏）（鬼）（三猿）

［台　石］

内山喜右衛門
内山長　松
□田小平六
原田小平□
□藤□兵衛
豊田平八郎
□田□平□
中□□三郎
□山三右衛門
□□小兵衛
□山□八郎
□□
田村
横山
田村
横山
新井
□
□

［右側面］

嘉享保三戊寅天十一月吉日　武州長嶋村

3．一石六地蔵菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地　長島・稲荷神社

石塔型式　駒型様特殊型（西南西向き・高さは高）

年　号　文化七年（一八一〇）

［左側面］

文化七庚午四月吉日

［正面］

（宝珠を錫杖を持つ地蔵）（香炉を持つ地蔵）

（合掌する地蔵）（天蓋を持つ地蔵）

（幡を持つ地蔵）（両手を合わせる地蔵）

［右側面］

長嶋村講中

4．地蔵像付き念仏供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地　長島・稲荷神社

石塔型式　舟型（西南西向き・高さは高）

年　号　元禄九年（一六九六）

［正面］

奉造立地蔵菩薩像二世安楽攸念仏講中

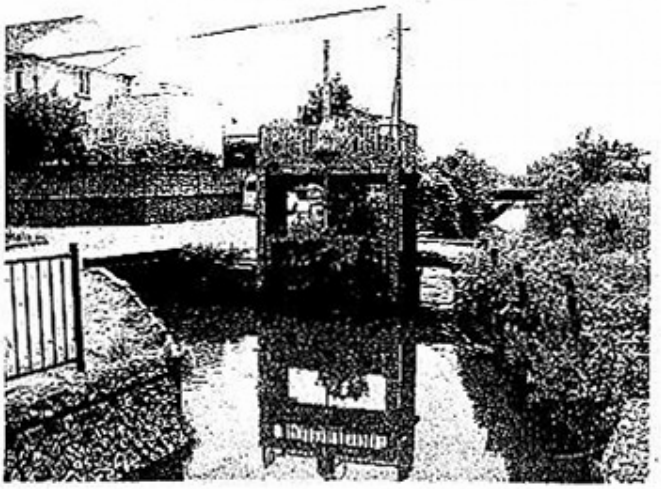
（梵字カ）（地蔵菩薩立像）

元禄九丙子秋十月吉祥日　敬白

※さらにこの隣に破損した年代不祥の石仏がある。「二十三」との文字が見られるので二十三夜（や）塔と推定できる。全国的にみられる月待（つきまち）塔ではあるが、市内では十九夜念仏塔以外の二十三夜塔は珍しい。主尊は合掌していると思われる勢至菩薩像である。

※以上の石仏は、もとの稲荷神社があった所から平成十四年四月に移転してきたものである。

三ツ又堰（健康福祉村の北側）
＜南方向を見る＞



水門の手前が元荒川から流れてきた末田用水、水門の先（南方）に流れる堀が新川、水門に向かって左（東方）へ流れる堀が出羽堀である。

≪新川・岩槻道に関してわかったこと≫

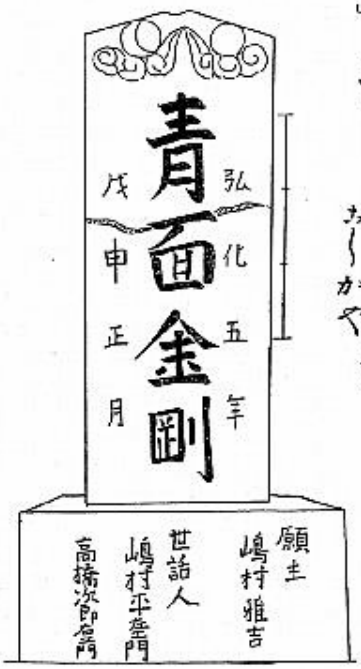
- 現在の新川は、江戸時代は「古綾瀬川」とも呼ばれ、かつては綾瀬川の本流でした。
- 新川は、現在の県民健康福祉村の北隣にある三ツ又堰より、この新川が綾瀬川に注ぐ綾瀬川の落とし口までをさしました。

  なお三ツ又堰は、末田用水が出羽堀や悪水落とし（現在の新川）とに分かれる所にあり、堰が三ツ又になっているためこう呼ばれました。古くから今日までこの地点にあります。
- 出羽堀は、江戸時代初期に越ヶ谷領を開発した会田出羽家（現在の御殿町にあった）の名前からきていると推定さています。
- 「新編武蔵風土記稿」という江戸時代の本には、越ヶ谷宿の項目の中で、「会田出羽介正之がこの地に住んで、堀を開き、その堀を≪出羽堀≫と唱えた」とあります。
- 江戸時代、新川（古綾瀬川）の左岸（北側）に沿って古道である岩槻道がありました。
- 旧赤山街道の綾瀬川に架かる「一の橋」は、江戸時代は「一の網橋」と呼ばれていたが、「網（あじ）」が抜け落ちて、短縮したものと思われます。

越巻 10・「菅原荘（すがわらのしょう）」文字塔

中新田の稲荷神社

越巻 11・道標付き文字庚申塔



［側面］ みぎ 大相模ふどうそん こしかや ミち

中新田の稲荷神社

中新田（なかしんでん）の稲荷神社

老人福祉センター「けやき荘」の西側そばにある。地元では親しみを込めて「妙観照」とか「中新田妙観照」と呼ばれている。困った時に、このあたりの開発者の会田七左衛門政重公に頼む気持ちで、彼の法名である「観照」をとって名付けたものであろう。

10・「菅原荘（すがわらのしょう）」文字塔（『越谷市金石資料集』天神一四番）
所在地　越巻・中新田の稲荷神社
石塔型式　自然石（北々東向き・高さは中）
年　号　嘉永三年（一八五〇）
［正面］
嘉永三戊九月
菅原荘
小供連

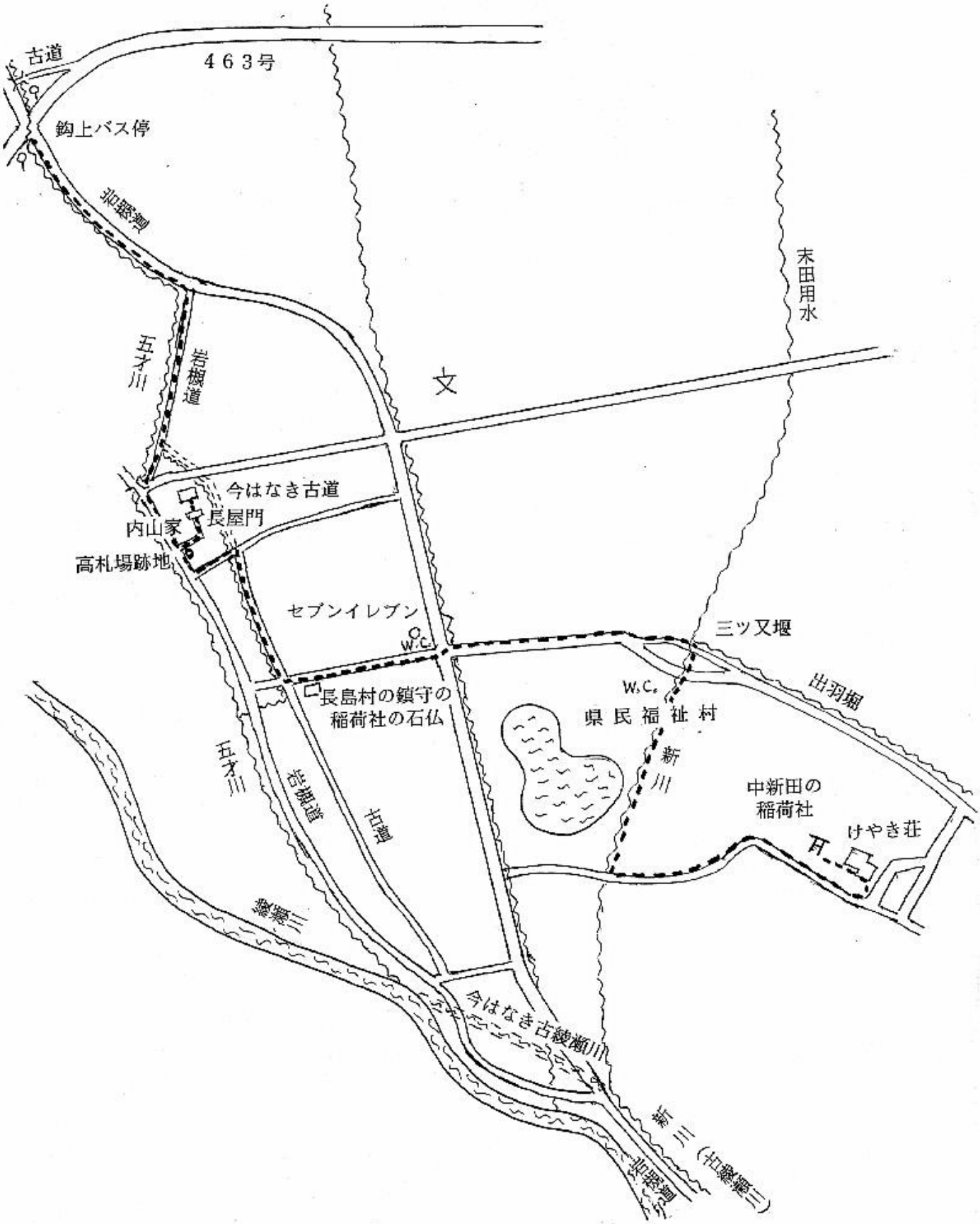
※「菅原荘」とは、学問の神様、菅公の領地とされる場所か。

11・道標付き文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申二八三番）
所在地　越巻・中新田の稲荷神社
石塔型式　駒型（北々東向き・高さは中）
年　号　弘化五年（一八四八）

［左側面］
みぎ　大相模ふどうそん　こしかや　ミち

［正面］
弘化五年
（日月）青面金剛
戊申正月

［台石］
願主
嶋村雅吉
世話人
嶋村平左ヱ門
高橋次郎右ヱ門


古道
463号
鈎上バス停
北綾瀬
末田用水
五才川
岩槻道
今はなき古道
長屋門
内山家
高札場跡地
セブンイレブン
W.C.
三ツ又堰
出羽堀
長島村の鎮守の
稲荷社の石仏
W.C.
県民福祉村
新川
中新田の
稲荷社
けやき荘
五才川
岩槻道
古道
綾瀬川
今はなき古綾瀬川
新三（北綾瀬）
北綾瀬